

## トマト黄化葉巻病耐病性品種について収量・品質に優れた有望品種を選定

兵庫県内では、例年黄化葉巻病による被害（上位葉が黄化・萎縮し減収）が発生している。本病害は媒介虫であるタバココナジラミの防除対策に加え、経営面からは耐病性品種の導入も必要である。そこで、耐病性品種のうち、抑制作型の水耕栽培での収量・品質に優れた品種を選定した。

### 内容

2013年7月19日に播種（72穴セルトレイ使用）し、閉鎖型育苗装置で育苗後8月13日に定植した。栽培方法はNFT方式の水耕栽培（大塚A処方1/2単位、EC1.5mS/cm）で株間12.5cm、2条振り分け（栽植密度5,000株/10a）とし、第3花房の上位2葉を残し摘心、各花房4果摘果とした。

収量性に優れた品種は「アニモTY-12」（写真）で、第1花房から大玉傾向であり、正常果重が543g/株と最も重かった（表1）。また、本品種は裂果の発生が最も少なく、正常果率が65%と高かった（表2）。

「TYみそら86」は糖度が5.9%と最も優れ、小果の発生がなかった（表2）。本品種は正常果重が310g/株であり、収量性は劣るものの、食味は良好であった。

### 今後の方針及び普及上の注意事項

黄化葉巻病耐病性品種は病徴を抑えられるものの感染・保毒はするため、感染源とならないよう、細密防虫ネット展張等の耕種的防除や薬剤防除も併せて行う必要がある。

耐病性品種は随時販売されるので、今後も適品種選定を行う。

渡邊 圭太（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2423）

表1 品種による収量性の差

品種名	全果重 (g/株)	正常果重 (g/株)	花房別正常果重(g/株)		
			第1花房	第2花房	第3花房
アニモTY-12	830	543	134	160	249
TY桃太郎さくら	1,046	488	94	169	224
SYTM-004	949	479	115	177	187
TYみそら86	698	310	92	70	148
ニュー大安吉日	1,061	265	40	120	105
NTO-TY04	1,010	180	24	85	70
TTM-061	856	143	13	40	90

※収穫期間：2013年10月3日～12月9日



写真 アニモTY-12

表2 品種による果実品質および障害果発生之差

品種名	糖度 (Brix%)	正常果・異常果個数割合(%)							
		正常果	裂果	小果	チャック果	頂裂異常	窓あき果	尻腐れ果	変形果
アニモTY-12	5.4	65.0	19.6	7.7	7.1	0.7	1.4	0.7	0.7
TY桃太郎さくら	5.1	54.5	20.9	8.2	9.2	11.0	0.7	0.7	0.0
SYTM-004	5.1	53.4	40.2	2.0	2.5	1.7	0.0	3.5	0.0
TYみそら86	5.9	50.0	43.8	0.0	5.0	0.0	0.9	1.2	2.1
ニュー大安吉日	5.2	28.4	61.5	7.4	4.7	1.4	1.4	0.0	0.7
NTO-TY04	5.1	17.7	76.9	4.6	2.9	0.0	2.2	1.4	0.8
TTM-061	5.4	22.5	65.5	8.3	4.5	0.7	0.7	0.0	0.8

※正常果および異常果個数割合はのべ数であるため、合計値が100%とならない場合がある。